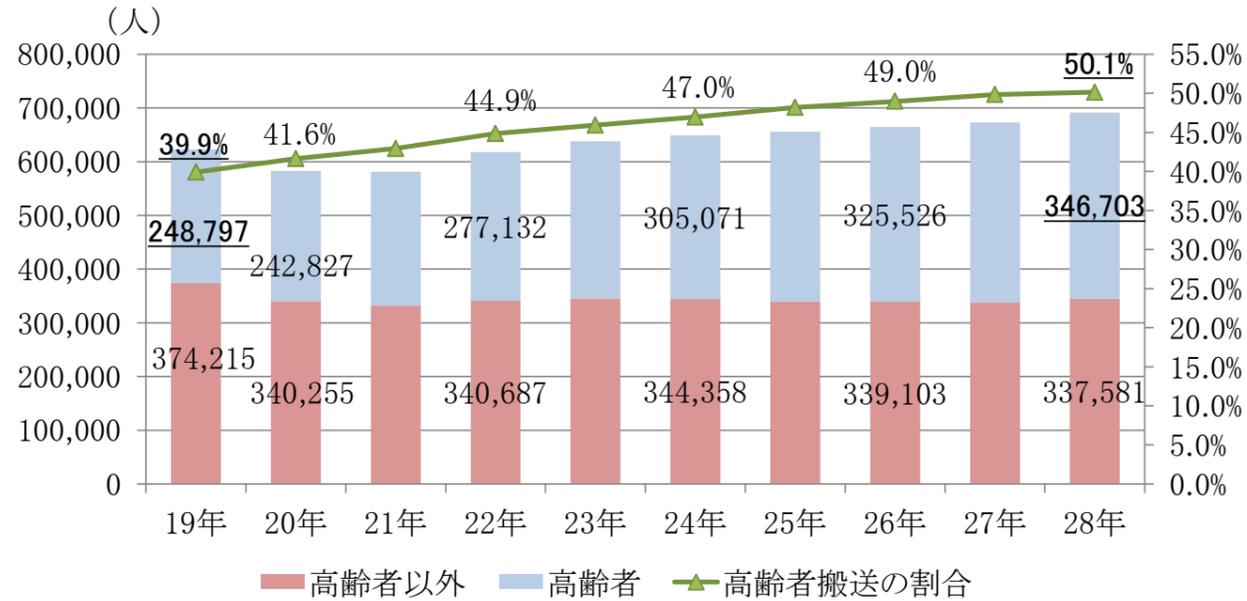


## これまでの救急搬送の状況

### 救急搬送人員の推移

- 平成19年から平成28年までに救急搬送人員は約68,000人増加  
内訳は、高齢者が約98,000人の増加、高齢者以外が約30,000人の減少



### 初診時程度別搬送人員

- 高齢者以外と比べ、高齢者は中等症以上の割合が高くなっている。
- 平成19年から平成28年までの10年間で、高齢者の中等症以上は約55,000人の増加、高齢者の軽症は約43,000人の増加となっており、高齢者は中等症以上の割合が高いものの、軽症の割合も約4割ある。

区分	平成19年 (単位:人)		平成28年 (単位:人)	
	高齢者	高齢者以外	高齢者	高齢者以外
軽症	102,594 (41.2%)	270,205 (72.2%)	145,815 (42.1%)	233,517 (67.7%)
中等症	114,036 (45.8%)	86,438 (23.1%)	167,532 (48.3%)	96,322 (27.9%)
重症	19,513 (7.8%)	11,269 (3.0%)	19,501 (5.6%)	9,689 (2.8%)
重篤	9,320 (3.7%)	5,348 (1.4%)	9,322 (2.7%)	4,326 (1.3%)
死亡	3,334 (1.3%)	955 (0.3%)	4,533 (1.3%)	866 (0.3%)
計	248,797 (100.0%)	374,215 (100.0%)	346,703 (100.0%)	344,720 (100.0%)

## 平成26年度東京都救急搬送実態調査

### 平均救急搬送時間

- 平成26年12月に実施した「東京都救急搬送患者調査」の結果では、65歳以上の救急搬送時間は、全ての初診時傷病程度別で65歳未満と比べ長くなっている。
- また、現場滞在時間についても、65歳未満が20.6分に対し、65歳以上は22.0分と長くなっている。

#### ◇ 平均救急搬送時間 (初診時傷病程度別)

区分	合計	軽症	中等症	重症	重篤	死亡	中等症以下	重症以上
全体 (分)	50.2	50.1	50.9	46.4	44.4	41.7	50.6	45.2
65歳未満 (分)	49.1	49.2	49.6	45.4	42.9	40.5	49.4	44.4
65歳以上 (分)	51.2	52.1	51.6	46.8	45.1	41.9	51.9	45.6
差 (分)	2.1	2.9	2.0	1.4	2.2	1.4	2.5	1.2

### かかりつけ医療機関への連絡状況

- かかりつけ医療機関がある場合、患者等が連絡した割合は22.5%であった。
- 「連絡あり」の場合の平均救急搬送時間は、「連絡なし」と比べ1.4分短い。

#### ◇ かかりつけ医療機関への連絡と平均救急搬送時間

区分	合計	連絡あり	連絡なし
搬送時間 (分)	51.5	50.4	51.8
件数 (件)	4,866	1,097	3,769
割合 (%)	100.0	22.5	77.5

医療機関からの指示 (複数回答)

- ・特になし 478件
- ・医療機関選定 434件
- ・救急処置 16件
- ・不明 14件
- ・その他 77件

### 情報共有ツールの活用

- 高齢者の救急搬送のうち、救急医療情報キット等ありは4.2%であった。
- キット等の有無で平均救急搬送時間に差は見られなかったが、キット等ありの場合には、病着から医師引継までの時間は8.6分で、なしの場合と比べ0.9分短かった。

#### ◇ 救急医療情報キット等の有無における平均救急搬送時間

区分	合計	キット等あり	キット等なし	不明	無回答
搬送時間 (分)	51.5	51.9	51.9	49.3	51.9
現場滞在 (分)	22.6	22.6	22.8	21.8	23.1
病着～医師引継 (分)	9.2	8.6	9.5	8.5	8.6